

## 【2020年 アンケート結果のご報告 日本高血圧学会ダイバーシティ推進委員会】

日本高血圧学会ダイバーシティ委員会が推進するダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（組織に活かす）の現状や課題についての会員を対象とするアンケートでは、206名の会員（20歳代 1.0%、30歳代 15.0%、40歳代 30.6%、50歳代 36.9%、60歳以上 16.5%）から回答をいただきました。

結果の概略は以下の通りです。

### 【会員種別】

評議員 19.9%、FJSH 18.9%、理事 6.3%、高血圧専門医 34%、高血圧指導医 27.2%、高血圧・循環器病予防療養指導士 8.7%

### 【ダイバーシティという言葉を知っていますか？】

- ・言葉も、その意味も知っている：73.8%
- ・聞いたことはあるが、意味はよく知らない：22.3%
- ・知らない：3.9%

（ただし、ダイバーシティに身体的障害やシニア世代活用、LGBTが含まれることとの認識は高くない）

### 【ダイバーシティとインクルージョンの意味・違いを知っていますか？】

- ・両方とも知っており、違いも説明できる：32.5%
- ・ダイバーシティは知っているがインクルージョンは知らない：51%
- ・ダイバーシティは知らないがインクルージョンは知っている：0.5%
- ・両方知らない：16%

### 【ダイバーシティの考え方は日本高血圧学会にとって必要だと思いますか？】

- ・必要と思う：83%
- ・必要とは思わない：2.9%
- ・わからない：14.1%

(理由としては学会の活性化や会員のキャリアアップのためが多い)

ダイバーシティ&インクルージョン推進のデメリットとしては、学会の事務局や特定の部署の負担が大きいことが40.3%と最も多かったです。デメリットはないとの意見も35%でした。また、現状すでに日本高血圧学会は取り組んでいるとの意見が63.6%でしたが、今後はさらに女性だけでなく若手も含めた医師・医療従事者の学会活動機会拡大・支援やキャリア形成支援に加え、総会・フォーラムでの企画を充実させることが必要との意見が多く寄せられました。

今後の日本高血圧学会に求められることとして、ダイバーシティ&インクルージョンを意識した具体的な支援体制や総会・フォーラムでのプログラム編成に加え、さらなる意識改革が必要という意見が多く寄せられました。

本アンケートの結果は詳細な解析を行い現在論文作成中です。また、2022年に改めてアンケートを実施し、同年京都で開催される国際高血圧学会において、医学系学会におけるダイバーシティ&インクルージョン推進の意義について世界に発信すべく引き続きダイバーシティ委員会は活動を続けてまいります。